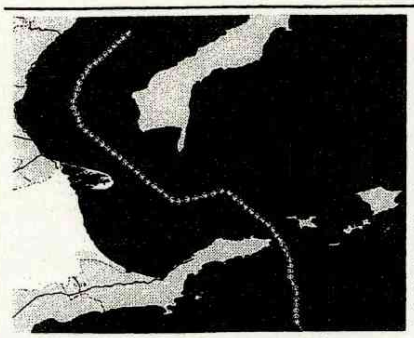
2008年（平成20年）1月22日（火曜日）
日本経済新聞

# 漁船の位置 陸地で把握

## 測量会社のイソジェック ネット画面で確認



「中間ライン」を示した地図の画面も用意（製作中の画面）

測量会社のイソジェック（根室管内別海町、磯田忠雄社長）は特定の漁船の位置を陸地で把握できるシステムを開発した。漁船に携帯電話の電波を発信する端末を持たせ、位置をインターネット端末画面で確認できる。北方領土の周辺海域で、漁船の拿捕（だほ）が相次いでおり、船の位置を確認したい漁業協同組合や漁業会社を中心に売り込む。

全地球測位システム（GPS）と地理情報システムを組み合わせた。レーダーと違ってネット画面でそれぞれ船名を判別できる。船の速度や方向も分かり、たとえば漁業の規制ラインを越えそうな船を発見した場合、無線などで注意を促すといった使い方ができる。

端末一台当たり一カ月一万五千円程度でシステムを利用できる。携帯電話の通信が可能な海域での利用となる。オプションとして、根室半島から知床半島海域の漁業規制ラインである「中間ライン」を示した地図も用意した。

道東ではGPSを装備している漁船は多いが、陸地からは把握できない。新システムは航跡も保存でき、ロシア側に拿捕された場合でも、規制ラインを越えたのかどうか、確認しやすくなるという。